

▼今回のポイント

今回のWeeklyニュースでは、タクシー事業で働くある親子のインタビューをお届けします。登場するのは、黒崎営業所で乗務員として働く西郡幸枝さん(母)と、小倉営業所・配車司令室で働く西郡好誠さん(息子)です。

「第一交通産業グループに入社して人生が変わった」とまで語る2人のエピソードを伺いました。

【入社のかっけ】

第一交通に入社する前は絵を描くことを仕事にしていたという幸枝さん。新たに職を探していた時、たまたま利用したのが第一交通のタクシーだったそうです。幸枝さん「子どもたちを養ったり、生活費を稼いだりを、絵だけではまかないきれない限界を感じたので職を探そうと悩んでいました。子どもが風邪をひいて、タクシーを利用したときに、たまたま第一のタクシーで、ドライバーさんに『求人募集はありますか?』と何気なく聞いたことがご縁でした」

また、同じくタクシードライバーの好誠さん。実は、外に出られない時期もあったそうですが、第一交通への入社をきっかけに周囲から「顔つきが変わった」と言われるようになったそうです。

好誠さん「僕は、家にひきこもっていた時期が長くて、そろそろ働かないといけないなと思っていた時期に、母の職場の所長さんたちから『会社に見学に来てみない? 見て決めたらいいよ』と声をかけてもらいました。そこで、タクシー乗務員として働いている母を見て、母や先輩乗務員の方の手助けになればいいなと入社を決めました」

【第一交通で気付いた働くことの魅力】

幸枝さんは自身について「自己肯定感が低く自分をなかなか評価できなかった」と語ります。第一交通で働くようになり、お客さんから「あなたで良かった」「女性ドライバーで良かった」と声を掛けてもらう中で、少しずつ自分の自信に繋がっていき、「もっと走りたい」と働く向上心にもなったといいます。幸枝さんに働きがいを感じると、お客様とのエピソードを交えて教えてくれました。

幸枝さん「以前、杖をついた膝が悪いお客様を接客したときに、スーパーで買い物したものを玄関まで持って行ってくれないかと頼まれ対応しました。たとえ690円やワンメーターだとしても、お客様が『ありがとう』と言ってくれることにすごく価値を感じます。こんな風に、人助け、人の役に立てることがやりがいです」

幸枝さんは、この第一交通のタクシードライバーの仕事を「自分の天職だ」と誇らしげに語ります。

そして、好誠さんもまた第一交通で働き始めたことで、自分自身の変化を感じるといいます。

好誠さん「以前は人と関わるのが怖かったです。ですが、所長さんや室長さん、オペレーターの方やお客さんと話すようになって、どんどん人と話せるようになりました。そこが成長できたポイントだと感じています」

好誠さん「外に出て、人の温かさに触れたり、色んなところに自分で行けるようになったり、自分が欲しいものを買えるようになってすごく嬉しいです」

また、好誠さんはタクシードライバーの仕事を「人に感謝されるやりがいのある仕事」と語ります。

好誠さん「お客さんから『いい対応をしてくれてありがとう』と言っていたとき、この仕事をやっていて良かったと感じます。入社してまだ2カ月なんですけど(笑)」

【2人の夢】

幸枝さんは、ずっと手に入れたいと思っていたApple Watchや車を買うことができたことも、第一交通で働いているおかげだと語ります。さらに、幸枝さん、好誠さんに**今後の目標を伺うと、第一交通のマンションに住むこと**だと夢を語ってくれました。

幸枝さん「**第一交通で働かせてもらうことで、人生が一変しました。**あと20年はドライバーとして働きたいです」

好誠さん「僕の目標は、**今いる先輩みたいに長く勤めて、後輩に教えられる、慕われる先輩になること**です。優しく教えてくれる先輩に憧れています。自分も先輩の立場になったときに、優しく後輩に教えてあげて、その後輩がまた彼、彼女らの後輩に教えられるような、そんな先輩を目指しています」